

市民会館整備特別委員会等で頂いた意見等の検討結果について

特別委員会での意見について

No.	ご意見	対応・検討内容	ページ 番号
1	トラック搬入口を1台ではなく2,3台分停められるようにしてはどうか。 創作室横にある作業ヤードを搬入口として利用しやすい設計にしてほしい。搬出だけでも上手から搬出できたら良いと考える。	大ホールの手側にサブの搬入口を設けます。 また、作業ヤードの搬入口もサブ搬入口として荷下ろし等が行いやすいよう検討します。	1 ページ 赤色①
			1 ページ 赤色②
2	舞台下手への搬入トビラが小さい。大ホールは搬入口の先にダクトスペースがあり、搬入動線上、支障があると思う。舞台袖の上手にあるピアノを小ホールで使いたい場合は運ぶ距離が長いのでトビラは大きくしてほしい。	舞台下手側の搬入トビラを大きくします。ピアノが移動しやすいよう、トビラのサイズを変更するとともに、小ホール舞台への動線を確保します。	1 ページ 赤色③
3	大ホールと小ホールの調光室と音響室は壁で仕切られているが、1人でオペレーションするイベントがあるので、行き来することを考えると仕切らない方がよい。	調光室と音響室の間にトビラを設置し、行き来を可能とします。	2 ページ 赤色④
4	シーリングライトが舞台から遠いと思われる、水平幕や舞台の後方までの照度不足が考えられる。	適切な投光角度や照度になるよう検討します。	5 ページ 赤色⑤
5	舞台上部にあるサスペンションライトが4本、ボーダーライトが2本であるが、同数にしてはどうか。	ボーダーライトを3本にします。	5 ページ 赤色⑥

6	緞帳の種類は上下に昇降するのか、引き割りになるのか。また、音響反響板設置時に緞帳を使用できるのか。	緞帳は上下にも昇降する引き割り緞帳を検討しています。音響反射板設置時に緞帳を使用することは想定していません。	5 ページ 赤色⑦
7	第 3 回特別委員会で運営費の概算を示したが、現在の設計だといくらになるのか。	第 3 回特別委員会時の試算条件である延床面積 10,858 m ² では概算運営費として 351,300 千円とお示していますが、延床面積 12,000 m ² で概算運営費を試算すると約 375,300 千円/年となります。 運営費(案)については、現在策定中である管理運営計画に基づく事業費や職員数、維持管理費等を積み上げたものを今年度中にお示します。	-

アイレックスの指定管理者等との協議により変更した点

No.	変更点	図面番号
1	大ホールと小ホールの関係者入口を別に設けました。	1 ページ 青色⑧
2	マルチスペース B 北側通路の幅を3m に広げました。	1 ページ 青色⑨
3	マルチスペース B の奥行を4. 5mに広げました。	1 ページ 青色⑩

物価などの変動を考慮した想定建築費について

1. 丸亀市(仮称)みんなの劇場整備計画(2020年策定)での整備費の概算

近年竣工したホール施設の整備費を参考にし、建物の工事単価を算出している。

88万円/延床面積1㎡(税込み) ※外構・備品等は含まない

債務負担行為額算出時の延床面積 12,000 ㎡での整備費(第10回特別委員会参照)

$12,000 \text{ ㎡} \times 88 \text{ 万円} = 10,560,000 \text{ (千円)}$

2. 現時点で想定する材料費や労務単価の傾向

整備計画を策定した 2020年から現在(2022年)までの傾向で推測する

・材料費の高騰

建設資材(主要資材)の指標から香川県における物価傾向より推測する。

2020年を100(基準)としたとき、2022年は132である。

→ およそ32%増が見込まれる。

・労務単価の推移

国土交通省が公表する公共工事設計労務単価においては、年々引き上げ傾向があり、近年の単価変動から労務単価を推測する。

2020年から2021年・・・1%UP 2021年から2022年・・・3%UP

→ およそ4%増が見込まれる。

3. 想定建築費の概算

工事の内訳を材料費50%、労務費30%、その他20%とし、2の傾向をもとに増加係数を算出する。

$(1.32 \times 0.5) + (1.04 \times 0.3) + (1.00 \times 0.2) = 1.17 \rightarrow$ およそ17%増

材料費 労務費 その他

1の整備計画時の工事単価に算出した増加係数を掛けて、現時点での想定工事費を算出する。

$88 \text{ 万円/延床面積1㎡(税込み)} \times 1.17 \div$ 103万円/延床面積1㎡(税込み)

想定工事単価と延床面積12,000㎡での整備費を算出する。

$12,000 \text{ ㎡} \times 103 \text{ 万円} =$ 12,360,000(千円)

4. 財源の内訳

3で算出した想定建築費の財源内訳は

国庫支出金 992,000 千円

地方債 9,889,000 千円(交付税措置2,893,000 千円)

一般財源 1,479,000 千円

合計 12,360,000 千円(実質負担額 8,475,000 千円)

※現時点で想定できる範囲での概算となり、本来であれば工事種別ごとの数量を拾い、適正な価格を調査し工事費を算出するが、設計の途中であるため積算が難しい。今後の社会情勢によって、今回示した想定建築費から変動する可能性がある。

環境に配慮した設備導入検討状況について

1. 再生可能エネルギーについて

自然環境の中にある枯渇しない資源をエネルギーとして活用すること。政令では太陽光・風水力・地熱・バイオマス等が定義されている。

2. 検討中の再生可能エネルギーについて

太陽光発電	太陽光パネルに太陽光が照射することにより発電するシステム
自然換気	外部の風力を利用した自然換気により館内の換気を行うシステム
地中熱	年間を通し温度変化の小さい地中の特性を利用し、熱交換するシステム
昼光利用	日中の太陽光を館内に取り入れることで、照明機器の使用を削減する

3. 省エネルギーについて

エネルギーを効率的に利用し、使用量の削減をすること。建物の消費性能が向上すると、資源の消費及びランニングコストの抑制を図ることができる。

4. 検討中の省エネルギーについて

空調に関すること	高効率機器の採用 全熱交換器の採用 大空間は人が滞在する場所のエリア的な空調 風量や温度の自動制御運転
日射遮蔽に関すること	日射を抑制する庇、複層ガラス、ブラインドの導入
BEMS	ビルエネルギー管理システムにより、消費エネルギーを管理し、効率的な運転を行う
コージェネレーションシステム	熱電供給といい、発電機により生産される電力と発生する熱を同時に利用することで、2つのエネルギーを供給するシステム

5. 設備設計の考え方について

<環境保全への配慮>

再生可能エネルギー、省エネルギーを考慮した環境負荷低減に寄与する計画とし、施設の立地や用途に適した設備機器を選定する。

<保全業務への配慮>

運営の効率化を考慮した機器の運転、保守管理、更新等の保全業務が経済的かつ容易なシステムを採用する。

<コストへの配慮>

各種システムの比較検討を行い、イニシャルコスト、ランニングコスト及び費用対効果を十分に精査し、バランスを考慮したシステムを採用する。

(仮称)みんなの劇場 設計スケジュール

